

実践事例 1

身につけさせたい力を明確にし、学び合い、想像力を高める体育学習

ー「河っ子祭りだ、ワッショイ」を通してー

米子市立河崎小学校 内田 誠

1. はじめに

「表現リズム遊び・表現運動」は、自己の心身を解放し、リズムやイメージの世界に没入して踊ることが楽しい運動である。そして、踊りで他者と共感・交流し合う楽しさや喜びを味わうことができる運動である。「表現リズム遊び・表現運動」では、心と体を揺さぶり、踊る楽しさや動きの面白さにふれ、仲間とともに、いつの間にか「その気」になって活動していく過程を大切にしなければならない。である。「みんなが違う」ことを認め、「多様だから面白い」と感じさせやすい領域である。

「表現運動」の第5学年及び第6学年の目標は、「いろいろな題材から表したいイメージをとらせ、即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊ることができるようにする。」である。即興的と言っても、ただ思いつくままに踊るだけではなく、体育学習としての技能を意識して踊ること、そしてその身につけた技能を用いて、子どもたち同士で題材に合った動きを見つけていくことが大切であると考えた。

そこで、表現運動の技能を明らかにし、習得するための時間をまとめて設定することで、身につけさせたい力を確実に獲得させること、その力を使って、題材に合った新しい動きを想像し、児童が関わり合いながら、表現していくことをめざし、主題を「身につけさせたい力を明確にし、学び合い、想像力を高める体育学習」とした。

2. 指導の実際（全7時間）

①学習過程と1単位時間の学習の流れの工夫

学習過程の組み方は多様な方法が考えられるが、本実践では「習得」を単元前半に、「活用・探究」を単元後半に意図的に配置した。それは、即興的に体を動かしたりするなどの表現活動の経験が少ないという子どもの実態をふまえ、単元の前半でしっかりと身につけさせたい力を習得した後に、それを生かせる学習場面を用意した方が、より効果的であると考えたからである。

また、本実践の習得の場面では、表現運動の基本となる「体のくずし」「空間のくずし」「リズムのくずし」「人間関係のくずし」の4つのくずしを意識して学習を進めていった。

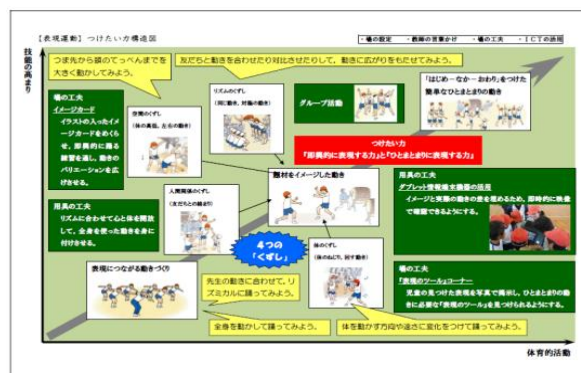
②学習内容の明確化

単元計画の中に「主なねらい」と「核となる学習内容」を明記することによって学習内容の明確化を図っている。この「核となる学習内容」とは、その時間に身につけさせたい力を身につけるための主となる活動であり、闇雲に羅列すればよいというものではない。技能の系統性を



(6) 単元の流れ及び評価の計画							
	1	2	3	4	5 (本時)	6	7
ねらい	・学習の進め方を理解しよう	・動きのイメージをふくらませて、思い通りに踊ろう	・動きのイメージをふくらませて、思い通りに踊ろう	・動きのイメージをふくらませて、思い通りに踊ろう	・動きのイメージをふくらませて、思い通りに踊ろう	・動きのイメージをふくらませて、思い通りに踊ろう	・動きのイメージをふくらませて、思い通りに踊ろう
核となる学習内容	・学習の進め方 ・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き	・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き	・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き	・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き	・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き	・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き	・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き
主な学習活動（「できる・チャレンジする」）	・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き	・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き	・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き	・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き	・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き	・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き	・ダンスの動き、リズムの動き ・ダンスの動き、リズムの動き
評価	①	①	①	①	①	①	①

「河っ子祭りだ、ワッショイ！」単元計画



つきたい力構造図

